

第2回鞍月用水堰周辺デザイン検討委員会

議事要旨

1. 日 時：平成22年1月25日（月）13時30分～15時25分
2. 場 所：石川県庁11階 1105会議室
3. 出席者：玉井委員、北村委員、黒川委員、八田委員、前多委員、南保委員、古瀬委員、山二委員
（馬場先委員、中村委員、川村委員においては、ご都合により欠席）
4. 会議の概要
 - (1) 開 会
 - ・事務局の司会進行により開会された。
 - (2) 挨拶
 - ・石川県中村河川課長から挨拶が行われた。
 - (3) 議 事
 - 1) 議事公開の確認について
 - ・委員長から議事公開の確認が行われ、委員の了承を得た。
 - 2) 検討課題
 1. 第1回委員会での提案
 - 1-1. 第1回委員会での提案骨子
 - 1-2. 第1回委員会での意見と回答
 - ・事務局から第1回委員会での提案、委員からの意見とそれに対する回答について説明が行われた。
 - （質 疑）
 - ・各委員からの主な質疑・意見内容については、次ページ以降に示す。
 2. 各施設の基本方針と修正案
 - 2-1. 各施設の修正案
 - 2-2. 鞍月用水堰の保存
 - ・事務局から各施設の基本方針と修正案について説明が行われた。
 - （質 疑）
 - ・各委員からの主な質疑・意見内容については、次ページ以降に示す。
 3. 今後の予定
 - ・事務局から第3回委員会の開催は3月の予定であることの説明が行われた。
 - (4) 閉 会
 - ・事務局より閉会の挨拶が行われた。

第2回検討委員会 各委員からの主な質疑・意見 及び 事務局回答・意見

河川流量データについて

- ・豊平低湯は何年間のデータを使われたのか。（玉井委員長）
- ・辰巳ダム完成後の推測値で、約30カ年（昭和43年～平成13年）の平均値を使用している。（事務局）

落差工による音について

- ・予測値が64、65、66デシベルとなると、ほとんど音は感じないと思う。屋内になればさらに20デシベル低下するという説明もあり、完全に環境基準をクリアしている。私としてはこれで十分だと思う。（北村委員）
- ・さらに音が小さくなるような工夫をしてほしい。（玉井委員長）
- ・そのように努めたい。（事務局）

魚道について

- ・魚道の遡上関係については非常にありがたい。漁業組合としてもスムーズに魚が遡上できるという判断に基づいている。（八田委員）

用水取水口について

- ・バースクリーンの前面の深さはどれぐらいか。低水するときには越えずに全部右岸側へ流れる危険性はないのか。（八田委員）
- ・計画の河床から1m下げた高さで、左岸側の魚道と同じ高さとなっている。（事務局）
- ・鞍月用水堰へ入っていく水量の最終的なチェックはどこで行うのか。（玉井委員長）
- ・余分な水は余水吐で自然越流するので、余水吐を過ぎた地点である。（事務局）
- ・本川の流量によっては、下流側へ流れていく量が変わる可能性はあるのか。（玉井委員長）
- ・計画取水口にゲートを設け、洪水時には閉める形で考えているので、大雨が降ったときでも大きいものは中に入らないと考えている。（事務局）
- ・取水した後の余水は余水吐から放流するという話は1回目のときにはなかったが、一定の取水量については組合と話をされているのか。（前多委員）
- ・余水吐の件は、第1回目の委員会の折に、取り入れ口にたくさん水が入ったときに本川の流量が減るので、もしもそういう状態のときはできるだけ近距離で川に戻すことが妥当である、ということになり今回の提案になった。（玉井委員長）
- ・鞍月用水は町なかを流れていて、いろんな方に見ていただく非常に大事な用水でもあるし、雨が降ったときには下流側でどんと落としているが、上流側のゲート、また下流側のゲートをどうリンクさせていくのか。（前多委員）
- ・上流にもテレメーターをつけて、市役所が管理してほしい。（南保委員）

玉石について

- ・犀川の河原に結構石はあるが、地元産の石は全く使えないのか。浅野川は随分石がふえている。従来量よりも増えている浅野川の石を犀川で使えないものか。（黒川委員）
- ・川の魚は石に比例する。犀川の石を護岸に使うとなると川の石が減るので、何としてでもその石は川に置いてほしい。犀川はダムができてから上流域から大桑近辺まで石がない。前にも一回お願いしてあるが、その石を上流部でもう一度川に入れてほしい。そうすれば、まだまだいい川になると思う。（八田委員）
- ・犀川の石の活用は八田委員が言われた形が妥当。常願寺川も大変な荒れ川で、石の強さではある程度大きなものが流れてきても欠ける心配はない。（玉井委員長）

親水護岸について

- ・右岸側の親水護岸に寄り州の形成とか土砂のようなものを置いてあるが、こういうものをつくるとヘドロがたまる。石を置いたほうが自然とヨシなどが生えると思う。ここに親水域ができれば、菊川小学校の児童たちにアユの放流体験をさせようと計画しており、そこにおりる階段などができればありがたい。（八田委員）

堤外水路について

- ・犀星の道のように憩いの場のようにはないか。ネーミングをして、もう少し市民なり県民に知ってもらうことはできないか。(山二委員)
- ・公園や樹木、堰がここにあったというネーミングなど、堰の一部を残すか否かということと合わせて関係者で話をしてほしい。(玉井委員長)

階段工について

- ・親水護岸の階段工で、現状の浅野川、犀川でも半割の石を使ったり、張ってあると思うが、今回、スライスした石を張ることに決めていく考え方と、け上げの高さと幅を教えてください。自然石を使うことはいいことだと思っている。(前多委員)
- ・歩くことを考えると表面の凹凸が小さい石張りを採用したい。幅、勾配については1段の幅が40cmで高さが20cmの段差だと、幅も広いし、け上がりも普通(25cm)より低いので、安心して歩ける階段になると思う。(事務局)
- ・表面の凹凸が大きいと高齢者の方々は使いづらいと思う。(玉井委員長)
- ・雨が降ったときに滑るので、表面を少しがさつかせた加工のものを意識していただければ、今の石張りでもいいと思う。(前多委員)
- ・バーナー仕上げなどして歩道で使っている例がある。工夫をして雨の日も滑りにくいものを考えている。(事務局)
- ・高水護岸部階段工は、スロープのようなものも用意されるのか。(山二委員)
- ・現況のスロープを残す予定である。(事務局)
- ・かなり距離があるが。(山二委員)
- ・堤外水路の暗渠ボックスが入るので、スロープを設置すると切り込むこととなるので難しい。(事務局)

ベンチについて

- ・堤外水路のベンチの配置について、右岸に100m単位で4基、左岸は犀川緑地を意識して配置を考慮してないのかと思うが、この630m区間の右岸、左岸を整備していく考え方であれば、左岸の座る場所はどうか。(前多委員)
- ・右岸側の堤外水路の上は計画高水位より上のため洪水時でも流れることはない。左岸側の高水敷は基本的に洪水が流れる断面であるためベンチを置きたくない。左岸側は散策路の上の堤防にベンチが現況あるので、堤防の上の広いところがあれば考えたい。(事務局)
- ・高水のかぶるところにベンチを置かないというのは河川管理者の思いであって、犀川緑地と合わせて休むところをつくれれば、それはそれでよろしいかなと思う。(前多委員)
- ・犀川緑地との一体感を高めるというのも一つあると思う。(玉井委員長)

樹木について

- ・雪見橋から見ると風景としては非常に美しい。上流側は自然は残っているが、下流側は寄り州だとか石の深目地だとか細かく配慮はしているが、全体として見ると非常に人工的な景観になる。スケールが大きくなった分、殺風景になると思う。夏の暑いときは木陰が欲しい。景観上あるいは流水上邪魔にならないところで2本でも3本でも残せないか。(黒川委員)
- ・河川管理施設等構造令の基準に当てはめると、今ある木は切らなければならない。基本的に左岸側は高水敷、右岸側は堤外水路より下は洪水に支障があるので難しい。(事務局)
- ・堤防の高い部分を前に出して植えることは許されないのか。(黒川委員)
- ・堤防の植樹可能なところで植えてあるところもあるので、一度整理して説明したい。(事務局)

堰の一部を残した場合について

- ・取り入れ口の前に池をつくるということなら反対する。木を植えた後、葉っぱが全部ここへ落ちてくると思うが、だれが掃除するのか。そういうことを考えて、なるべくすっきりした鞍月用水堰の景観を考えてほしい。(南保委員)
- ・取水口について組合の要望が出されたが、景観審議会の用水みちすじ部会では土木の変遷がわ

かるほうが望ましいので何らかの形で残してほしいという意見が出た。管理の不安もあるが、小さくてもそこだけ土塁が残っているような、要するにためますの大きなようなもので、上流から流れて来た水が昔ながらの取水口からはいっていきのが見えて、歴史を示す案内板などもあるという折衷案的な形でもできないかと思う。(黒川委員)

- ・積極的に残すというのは難しい面もあるので、全て撤去するという案も含めて、十分に案を練っていただきたい。(玉井委員長)
- ・用水自身はかなり歴史があるので、そこから水が入っていくことをきちんと見せるのは大事なことはないかという意見があった。最終的にどこが管理するかも含めて、もう少し煮詰めたいと考えている。(事務局)

まとめ

第2回検討委員会のまとめが委員長から提示され、意見の一致を見た。

- ・護岸に玉石を使う。深目地にすることで、時間とともに石の間に土砂がたまって、植物も生えることを期待する方式とする。
- ・階段は石張階段とする。工夫をして雨の日も滑りにくいものを考える。
- ・舗装の色は、堆積している石も茶色系の石とか土で、左岸側ともそろそろ茶系とする。
- ・堰の一部を残す場合の処置の方法について、公と民の負担あるいは考え方が今は多様になっているので積極的にというのはなかなか難しい面がある。堰をすべて撤去し、メモリアル看板等を設置する考えも入れて、関係者の意見を含めて十分に案を練ることとする。
- ・中州とか湾曲は年の最大の洪水とか、2年に1回起こるような洪水の状態でかなり決まってくる。多分犀川の場合、高水敷より低い水位だと思う。新しい低水路の流れと現在の低水路の流れ、そういったものを比較して州ができるような条件、川幅と水深の比率とか代表的な要素を再確認しておくのがよい。